

新函館北斗駅前への 立地をご検討ください

北斗市では、2015年度末の北海道新幹線開業に伴い、「新函館北斗駅」の南側に商業用地(5.3ha)を造成し、観光・ビジネス交流における北海道の玄関口にふさわしい拠点づくりを進めています。この地区において建築物の新築又は設備の取得を行う事業者に対して、建築投資額や土地賃借料、設備取得費、建物賃借料等の一部を市が助成する制度を設けていますので、立地をぜひご検討ください。



お問い合わせ・資料請求
 北斗市経済部水産商工労働課
 TEL.0138-73-3111(内線285・286)
 〒049-0192 北斗市中央1丁目3番10号
 詳細は



新青森駅周辺の商業用地を販売中です

青森市では、新青森駅利用者の利便性向上に向けて、民間の資本力・企画力・経験豊かな手法等を効果的に導入するため、事業提案方式により石江土地区画整理事業の一般保留地の処分を行うこととしました。提案された事業について、審査及び選定を行い、その結果選定された事業の提案者に対しては、購入費の助成等の支援制度を設けていますので、立地をぜひご検討ください。

お問い合わせ・資料請求
 青森市都市整備部 石江土地区画整理事務所
 TEL.017-763-5733 〒030-0811 青森市青柳一丁目16-12
 詳細は

- 北海道新幹線開業に関する最新情報は
- ◎北海道新幹線開業NAVI <http://hokkaido-shinkansen-navi.jp/>
 - ◎北海道新幹線開業NAVIフェイスブックページ <https://www.facebook.com/h.shinkansen.navi>

- 津軽海峡圏に関する情報は
- ◎青函圏交流・連携推進会議 <http://www.jomon.ne.jp/seikan01/>
 - ◎みなみ北海道観光推進協議会 <http://www.minami-hokkaido.jp/>
 - ◎青森県観光情報アプティネット <http://www.aptnet.jp/>

- 津軽海峡圏の食材情報は
- ◎南北海道食彩王国 <http://www.southern-hokkaido.com/>
 - ◎青森のうまいものたち <http://www.umai-aomori.jp/>

津軽海峡圏 BIZ-BOOK 発行

◎北海道総合政策部交通政策局新幹線推進室 札幌市中央区北3条西6丁目 TEL.011-231-4111(内線23-816)

◎青森県企画政策部交通政策課 青森市長島1丁目1-1 TEL.017-734-9152(直通)

つながる! ひろがる! 北海道新幹線

津軽海峡圏 BIZ-BOOK

エリアがつながる、チャンスがひろがる。

北海道新幹線開業で
津軽海峡圏がもっと近くなる!

津軽海峡圏ビジネスの可能性
津軽海峡圏の連携が生んだ逸品
津軽海峡圏の注目食材

H5系シンボルマーク
北海道新幹線H5系(はやぶさ)は(はやく)2015年度末運行開始(予定) Hokkaido Railway Company Series H5

(ラムダ)プロジェクト
シンボルキャラクター
マギユロウ

北海道新幹線開業
PRキャラクター
どこでもユキちゃん

新たなビジネスチャンス到来! 北海道新幹線開業で 津軽海峡圏がもっと近くなる!

2015年度末、いよいよ北海道新幹線の開業を迎えます。
新青森～新函館北斗間が約1時間で結ばれることにより、
青森県と道南地域の交流がより活発になると見込まれます。
このパンフレットでは、ビジネスの視点から津軽海峡圏の連携を
進めるための可能性や事例についてご紹介します。

もっと知りたい! 津軽海峡圏

青森市と函館市の「青函ツインシティ提携」をはじめ、これまでも津軽海峡を挟んだ広域経済圏構想が打ち出されてきましたが、実質的な活動は一部に留まることが多いのが現状でした。青森県と道南地域の人口の合計は約180万人であり、北海道新幹線開業によって都市間が時間的・心理的に近づくことで、東北以北では札幌市、仙台市に次ぐ第3の100万人規模のエリアが誕生します。新たな産業・経済交流圏となる「津軽海峡圏」への期待が高まっています。



01 TSUGARU STRAIT AREA Cooperation

新幹線開業はゴールではなくスタート。 持続的な取り組みで津軽海峡圏の活性化を。

商工会議所同士の連携で 新商品を育てるビジョン

これまでの函館は独立した経済圏であり、青森県との人的な交流はありましたが、事業の交流はあまり行われてきませんでした。しかし、北海道新幹線の開業という大転機を前に、函館商工会議所として青森・弘前両商工会議所との事業連携をさらに推進していく方針です。弘前商工会議所とは、2011年4月に「津軽海峡観光クラスター会議」を発足させ、また、青森商工会議所とも2013年3月から「会員事業所パートナーシップ構築懇談会」を開催しています。どちらも新たなビジネスマッチングの場として、製造・小売業だけでなく、ビジネスモデルでの連携も進んでいます。新たな商品も生まれていますが、今後の課題は、その商品を育てるための販路の確立です。青函連携による

新商品をブランド化させるためにも、双方の地元で流通させる必要があります。さらに、青森と函館の物産展を首都圏で開催するなどの展開も必要でしょう。

新幹線がもたらす刺激が 函館の経済を成長させる

函館圏のマーケットはそれほど大きくありませんが、新幹線開業によって、青森市・弘前市・八戸市ともスピーディーに結ばれることで、点と点の関係性から面での展開が可能になります。2014年夏、うちの青年部がPRキャラバンで東北新幹線の沿線へ行きました。3班に分かれ、2日間で33か所を回る中で、メンバーは新幹線のスピード感とその効果を実感したようです。これからは青森や東北から新たな情報やビジネスモデルがやってきます。すでに、今まで函館になかったサービスを売りにシェアを伸ば

している企業もあります。これらを脅威と受け止めるのではなく、自分たちに欠けていた視点と捉えて、顧客のニーズに応える技術やサービスに磨きをかけることが必要でしょう。新幹線開業は地元にとってゴールではなくスタートです。一時的な開業効果に頼るのではなく、持続的な取り組みが大事です。青森県との連携は、函館の経済にとってプラスになることは間違いありません。その相乗効果で安定的な雇用を作り出し、人材を定着させることで、地域の活性化を図っていきたくと考えています。



02 TSUGARU STRAIT AREA Cooperation

青森県にとっても第3の開業となるチャンス ビジネスと観光の両面で活かしていきたい。

商談会などの機会も増え 高まる企業連携への期待

世界遺産登録を目指す「北の縄文文化」に代表されるように、青森県と道南地域は昔から交流が盛んでした。商工会議所同士、一緒にビジネスに取り組みたいという話はずっと以前からあったのですが、なかなか形にならないままでした。青森商工会議所と函館商工会議所の「会員事業所パートナーシップ構築懇談会」が実現し、その中から具体的な商品開発が進んだことは、我々にとっても大きな喜びです。また、青森産業会館で開催されている「津軽海峡ブランド博」も、2013年の第2回では、津軽海峡交流圏の11市町村から101の企業・団体に参加いただき、青森市などの企業が作る14商品を「津軽海峡ブランド」として初

認証しました。具体的な連携商品への取り組みなどはまだ始まったばかりですが、新たなマッチングから魅力的なブランド商品が生まれるのではないのでしょうか。

互いの魅力を発見し合い もっと充実した観光圏に

北海道新幹線の開業は、八戸、新青森に続く「第3の開業」として、青森県の経済界としても非常に期待しています。開業直後に実施される「青森県・函館デスティネーションキャンペーン」でも、津軽海峡交流圏が一体となって情報を発信していきたいと思えます。青森と函館が約1時間で結ばれるメリットを活かし、今後は観光面での交流にもっと力を入れたいですね。世界的な観光都市・函館のパワーを、ぜひ青森にも分けていただければ。例えば、函館空港を利用する台北からの観光客に新幹線

で青森まで来てもらうとか、新幹線とフェリーで海峡エリアを周遊できる旅行商品なども面白いのでは。そういう点で、個人的に最も期待しているのが「バル街」です。函館・弘前・青森の各バル街で、新幹線を使った「海峡はしご酒」が実現すれば、大きな話題になることは間違いありません。住んでいる土地が秘めているポテンシャルにはなかなか気がつかないものですから、青森と道南がお互いの新しい魅力を発見し合って、一緒に発信していくような関係性を強めていければと考えています。

